

# 令和 8 年用りんご病害虫防除基準

散布時期	適 用 病 害 虫	薬剤名及び濃度（水100 ℓ 当たり薬量）	収 穫 前 使用日数	総使用 回 数	10a 当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
黒 芽 展 開 期 （ 10 月 初 旬 ～ 後 旬 ）	① ハダニ類 （カイガラムシ類）	1. 水 （99 ℓ）		—		1. モモチヨッキリゾウムシが多い園は、マブリック E W <sup>㊟</sup> 2,000倍（30日前まで、2回以内）を使用してもよい。 2. ハーベストオイルに替えてスプレーオイル100倍（展葉期（発芽後2週間まで）、一）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒 星 病	2. ハーベストオイル 100倍（1 ℓ）	展 葉 期 （発芽後2週間まで）				
	腐 ら ん 病 モ リ ニ ア 病	3. ベルクート水和剤 2,000倍（50 g）	前日まで	6 回以内	350 ℓ		
		4. トップジンM水和剤 1,000倍（100 g）	前日まで	6 回以内			
	カイガラムシ類幼虫	5. アブロードフロアブル 1,000倍（100ml）	30 日 前 ま で	2 回以内			
星 病	【特別】 黒 星 病	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍（66 g）	開 花 前 ま で	2 回以内	350 ℓ	1. ストライド顆粒水和剤に替えて、I C ボルドー412 30倍（一、一）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	② 褐斑黒点落葉病 黒うも赤ど星り星こア	1. トレノックスフロアブル 500倍（200ml）	30 日 前 ま で	5 回以内	400 ℓ	1. 摘花剤としてエコルーキー 100～150倍（満開日、追加散布を要する場合は2～3日後に1回、2回以内）を単用で利用できる。 2. シンクイムシ類の発生の多い園では、4月下旬にコンフューザー N を150～200本/10a 設置する（下記「交信かく乱剤」参照）。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	ハマキムシ類 ケ ム シ 類	2. カナメフロアブル <sup>㊟</sup> 4,000倍（25ml）	前日まで	3 回以内			
重 花 直 後	③ 黒黒褐星点斑病 黒 星 病 アブラムシ類	3. サムコルフロアブル10 5,000倍（20ml）	前日まで	3 回以内			
		1. ペンコゼブ水和剤 500倍（200 g）	30 日 前 ま で	3 回以内	500 ℓ	1. クレフノンに替えて、バイカルティ1,000倍を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ミギワ20フロアブル 4,000倍（25ml）	前日まで	3 回以内			
		3. ウララ D F 2,000倍（50 g）	14 日 前 ま で	2 回以内			
点 落 花 10 日 後		4. クレフノン 100倍（1 kg）					
	④ 黒黒褐星点斑病 うどんこア病 斑 点 落 葉 病 シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ リンゴワタムシ	1. デランフロアブル <sup>㊟</sup> 2,000倍（50ml）	60 日 前 ま で	3 回以内	600 ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. スコア顆粒水和剤 3,000倍（33 g）	14 日 前 ま で	3 回以内			
		3. ダントツ水溶剤 2,000倍（50 g）	前日まで	3 回以内			
防 除		4. クレフノン 100倍（1 kg）					
	⑤ 黒黒褐星点斑病 斑 点 落 葉 病 シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ アブラムシ類	1. ペンコゼブ水和剤 500倍（200 g）	30 日 前 ま で	3 回以内	600 ℓ	1. この時期は毛ぶるい期に入り、サビ果が出やすいので、乾きやすい時間帯に散布する。 2. クレフノンに替えて、バイカルティ1,000倍を使用してもよい。 3. アブラムシ類、リンゴワタムシの発生している園ではトランスフォームフロアブル2,000倍（前日まで、3回以内）を散布する。 4. 腐らん病対策として摘果痕からの感染を防止するため、摘果後にトップジンM水和剤1,500倍（前日まで、6回以内）またはベンレート水和剤2,000倍（前日まで、4回以内）を枝幹部にも十分かかるよう散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ポリオキシシンAL水和剤 1,000倍（100 g）	3 日 前 ま で	3 回以内			
		3. アグロスリン水和剤 <sup>㊟</sup> 1,000倍（100 g）	前日まで	2 回以内			
除 20 日 後		4. クレフノン 100倍（1 kg）					
	⑥ 炭黒黒そ星点病 斑 点 落 葉 病 アブラムシ類 カイガラムシ類 ハダニ類	1. デランフロアブル <sup>㊟</sup> 2,000倍（50ml）	60 日 前 ま で	3 回以内	600 ℓ	1. ヒメボクトウの発生が多い園では6月上旬にボクトウコンーHを100～150本/10a 設置する。なお、3年以上連続して使用することで効果が安定する。 2. 極早生品種のある園では、デランフロアブルに替えてペンコゼブ水和剤500倍（30日前まで、3回以内）を使用してもよい。 3. カメムシ類の発生が多い園ではモベントフロアブルに替えてモスピラン顆粒水溶剤 <sup>㊟</sup> 2,000倍（前日まで、3回以内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. パレード15フロアブル 2,000倍（50ml）	前日まで	2 回以内			
		3. モベントフロアブル 2,000倍（50ml）	14 日 前 ま で	3 回以内			
頃		4. バイカルティ 1,000倍（100 g）					

## 耕種的防除

全 般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。 3. 病害虫は樹上の粗皮や芽の付近に越冬するものが多いので、効率防除を図るため、休眠期防除前に粗皮削りを行なう。
炭 輪 病	1. 園周辺のニセアカシヤやクルミ等は、伝染源になるので除去する。 2. 樹勢が弱いと発生しやすいので、樹勢の維持に努める。 3. 休眠期にいは皮病斑を削り取り、削り取った病患部は適切に処理する。
黒 星 病	1. 発病した葉や果実は、見つけしだい摘み取り、適切に処分する。
ナシマルカイガラムシ	1. 園周辺の雑木は、寄種（伝染源）になるので除去する。

## りんご施肥基準（成木：10a 当たり）

品種・目標収量	肥 料 名	施肥量（kg）	施肥時期	N	P	K
つがる（3,600kg）	フレッシュフルーツ有機80	60～80kg	9月下旬	3.6～4.8	1.8～2.4	1.2～1.6
ふ じ（3,600kg）	フレッシュフルーツ有機80	40～80kg	10月上旬	2.4～4.8	1.2～2.4	0.8～1.6

## 落果防止剤の使用について

落果防止剤	使用時期	注意事項
ヒオモン水溶剤 2,000倍 2回以内	収穫開始予定 21～4日前	単用で散布する。

## 交信かく乱剤（シンクイムシ・ヒメボクトウ対策）

対象病害虫	薬剤名	使 用 方 法
モモシンクイガ ナシヒメシンクイ リンゴモンハマキ	コンフューザー N	4月下旬にコンフューザー N を150～200本/10a 設置し、7月上旬にナシヒメコン 50 本/10a を追加設置する。
ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	
ヒメボクトウ	ボクトウコンーH	6月上旬に100～150本/10a 設置する。なお、3年以上連続して使用することで効果が安定する。

1. 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園内均一に設置する。
2. 傾斜上部の設置割合を1～2割多くする。
3. 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
4. 防風ネットなどを利用する。
5. 高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。

散布時期	適 用 病 害 虫	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）	収 穫 前 使用日数	総使用 回 数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴																														
⑦ 6月20日頃	斑 点 落 葉 病 褐斑星紋病病病	1. パスポート顆粒水和剤 1,000倍（100g）	45 日 前 ま で	3 回以内	600 ℓ	1. 殺ダニ剤を使用する場合は、4 日前までに草刈りを終了する。除草剤を使用する場合は殺ダニ剤散布の 1 週間前までに終わらせる。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	シンクイムシ類 キンモンホソガ	2. エクシレルSE 5,000倍（25ml）	前日まで	3 回以内																																	
	ハダニ類	3. ダニオーテフロアブル 2,000倍（50ml）	前日まで	1 回																																	
		4. バイカルティ 1,000倍（100g）																																			
⑧ 7月上旬		1. 展着剤（アビオンーE） 1,000倍（100ml）			600 ℓ	1. ナシヒメシンクイの多い園では7月上旬にナシヒメコン50本／10aを追加設置する。 2. ヒメボクトウの被害がみられる園では、7月上旬頃フェニックスフロアブル4,000倍（前日まで、2 回以内）を枝幹部に十分かかるようていねいに散布する。また、ロビンフッド（前日まで、5 回以内）を樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。 3. ツインバリアー水和剤に替えてナリアWDG2,000倍（前日まで、3 回以内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	斑 点 落 葉 病 褐輪黒炭斑紋星そ病病病病	2. ツインバリアー水和剤 1,000倍（100g）	前日まで	3 回以内																																	
	シンクイムシ類 リンゴワタムシ	3. ダントツ水溶剤 2,000倍（50g）	前日まで	3 回以内																																	
		4. バイカルティ 1,000倍（100g）																																			
⑨ 7月中旬		1. 展着剤（アビオンーE） 1,000倍（100ml）			600 ℓ	1. 褐斑病が多い園は、ICボルドー412 30倍（一、一）を使用してもよい。ICボルドー412を使用する際は、単剤で展着剤は加用しない。 2. 散布の際は褐斑病防除の為に防除間隔を10日以上空けないようにする。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	斑 点 落 葉 病 褐輪黒炭斑紋星そ病病病病	2. ドキリンフロアブル 800倍（125ml）	14 日 前 ま で	4 回以内																																	
	褐斑病	3. ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍（50g）	14 日 前 ま で	4 回以内																																	
	シンクイムシ類 ハマキムシ類類類	4. オリオン水和剤40 1,000倍（100g）	前日まで	2 回以内																																	
		5. バイカルティ 1,000倍（100g）																																			
品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。																																					
⑩ 7月下旬		1. 展着剤（アビオンーE） 1,000倍（100ml）			600 ℓ	1. ビターピット対策として、バイカルティ1,000倍を加用してもよい。 2. 極早生に使用する場合は、収穫前使用日数に注意する。または、オキシラン水和剤に替えて、オーソサイド水和剤80 800倍（前日まで、6 回以内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	斑 点 落 葉 病 黒輪黒点紋星病病病病	2. オキシラン水和剤 700倍（142g）	14 日 前 ま で	4 回以内																																	
	褐斑病	3. オンリーワンフロアブル 2,000倍（50ml）	7 日 前 ま で	3 回以内																																	
	シンクイムシ類 カメムシ類類類 キンモンホソガ リンゴワタムシ	4. モスピラン顆粒水溶剤 <sup>㉔</sup> 2,000倍（50g）	前日まで	3 回以内																																	
【 特 別 】		1. 展着剤（アビオンーE） 1,000倍（100ml）			600 ℓ	1. 降雨が続く場合は追加で散布する。 <div>高温・乾燥が続く場合は、日焼け軽減・果点荒れ対策を目的にサンバリア1,000倍を加用して散布する。</div>	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	斑 点 落 葉 病 褐輪黒炭斑紋星そ病病病病	2. ドキリンフロアブル 800倍（125ml）	14 日 前 ま で	4 回以内																																	
⑪ 8月上旬	斑 点 落 葉 病 褐すす炭輪斑点斑病病病病病	1. ダイパワー水和剤 1,000倍（100g）	前日まで	開花期以降 3 回以内	600 ℓ	1. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。 <table><tr><th>薬 剤 名</th><th>希釈倍率</th><th>収 穫 前 使用日数</th><th>総使用 回 数</th><th colspan="2">使用時期</th></tr><tr><td>スターマイトフロアブル</td><td>2,000倍</td><td>前日まで</td><td>1 回</td><td>7月</td><td>8月</td></tr><tr><td>カネマイトフロアブル</td><td>1,000倍</td><td>7 日 前 ま で</td><td>1 回</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>オマイト水和剤</td><td>750倍</td><td>3 日 前 ま で</td><td>1 回</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>アカリタッチ乳剤</td><td>3,000倍</td><td>前日まで</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td></tr></table> ※アカリタッチ乳剤は、殺卵効果が無く、残効性も期待できないので、5～7日間隔の連続2回散布や、他剤とのローテーションで使用する。	薬 剤 名	希釈倍率	収 穫 前 使用日数	総使用 回 数	使用時期		スターマイトフロアブル	2,000倍	前日まで	1 回	7月	8月	カネマイトフロアブル	1,000倍	7 日 前 ま で	1 回	○		オマイト水和剤	750倍	3 日 前 ま で	1 回		○	アカリタッチ乳剤	3,000倍	前日まで	－	○	○	散布日 月 日 散布量 ℓ
	薬 剤 名	希釈倍率	収 穫 前 使用日数	総使用 回 数			使用時期																														
	スターマイトフロアブル	2,000倍	前日まで	1 回			7月	8月																													
カネマイトフロアブル	1,000倍	7 日 前 ま で	1 回	○																																	
オマイト水和剤	750倍	3 日 前 ま で	1 回		○																																
アカリタッチ乳剤	3,000倍	前日まで	－	○	○																																
キンモンホソガ類 シンクイムシ類類類 (ギンモンハモグリガ)	2. アグロスリン水和剤 <sup>㉔</sup> 1,000倍（100g）	前日まで	2 回以内																																		
ハダニ類	3. コロマイト乳剤 1,000倍（100ml）	前日まで	1 回																																		
⑫ 8月中旬	斑 点 落 葉 病 輪すす炭輪斑点斑病病病病病	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍（33g）	前日まで	3 回以内	600 ℓ	2. ビターピット対策として、ストビットⅡ500倍を8月上旬以降2～3回加用散布してもよい。 3. ファンタジスタ顆粒水和剤に替えてフリントフロアブル25 2,000倍（前日まで、4 回以内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	シンクイムシ類 (キンモンホソガ)	2. バリアード顆粒水和剤 <sup>㉔</sup> 2,000倍（50g）	前日まで	3 回以内																																	
⑬ 8月上下旬	斑 点 落 葉 病 褐すす炭輪斑点斑病病病病病	1. ダイパワー水和剤 1,000倍（100g）	前日まで	開花期以降 3 回以内	600 ℓ	1. リンゴワタムシ対策として、トランスフォームフロアブル2,000倍（前日まで、3 回以内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	シンクイムシ類	2. テッパン液剤 2,000倍（50ml）	前日まで	2 回以内																																	
⑭ 9月中旬	斑 点 落 葉 病 褐輪すす炭斑点斑病病病病病	1. オーソサイド水和剤80 800倍（125g）	前日まで	6 回以内	600 ℓ	1. スカウトフロアブルに替えて、ロディー水和剤1,000倍（前日まで、2 回以内）を使用してもよい。 2. オーソサイド水和剤80に替えて、ナリアWDG2,000倍（前日まで、3 回以内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	シンクイムシ類	2. スカウトフロアブル <sup>㉔</sup> 2,000倍（50ml）	前日まで	5 回以内																																	
⑮ 9月下旬 10月上旬	褐すす炭斑点斑病病病病病	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍（66g）	開花から 前日まで	3 回以内	600 ℓ	1. 高温時の散布は薬害の危険があるので、気温の低い時に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														